

女講中の民俗誌

戸邊優美著 2019.02刊/A5判・308頁/7400円
牡鹿半島における女性同士のつながり 宮城県石巻市牡鹿地区に近世から続いた女性講集団(じょこうちゅう)を調査し、その変容する姿を描く。

来訪神 仮面・仮装の神々

保坂達雄・福原敏男・石垣悟著 2018.12刊/A5判・272頁 3600円
ユネスコ無形文化遺産登録 男鹿のナマハゲなど10件の来訪神。その多様な民俗行事の意味を問う。

ニソの杜と若狭の民俗世界

金田久璋著 2018.11刊 A5判・418頁 9200円
祖霊信仰の聖地ニソの杜や、越前の田の神祭りやアイノコトなど、広く福井県の民俗世界を描く。

近世金毘羅信仰の展開

北川 央著/2800円 2018.10刊/A5判・204頁
全国に展開した金毘羅信仰の実態を調査し、参詣ルートや、個々の信仰の諸相を明らかにする。

押送船 (おしおくりぶね)

胡桃沢勘司著 2018.12刊/A5判・126頁/1900円
江戸時代の小型快速船 江戸湾を中心に関東地方の漁村で魚を積み、江戸の魚市場に運ぶのを主な業務とした快速船。その起源を紀伊半島に探る。

おんなの身体論

鈴木明子著 2018.10刊/A5判・216頁/4800円
月経・産育・暮らし 月経名称とその意識の変遷を歴史的に追い、現代の事例から考察。更にお産を身体技法から読み解く。地域の事例2編ほか。

都市化のなかの民俗学

倉石忠彦著/11000円 2018.10刊/A5判・500頁
自らの研究史をふまえ、「渋谷」の民俗、小説の中の民俗学など、新たなテーマで都市民俗学を記述。

東国の祇園祭礼 近刊

坂本 要編 2019.11刊/A5判・490頁/11000円
茨城県霞ヶ浦周辺地域を中心に 1993年以降の調査と、近世以降の資料、論考・コラムなどで、神事としての古態を残す特色ある祭礼を記録・考察。

学校資料の未来

地方史研究協議会編 2019.05刊/A5判/2800円
地域資料としての保存と活用 学校で作成・授受・収集され保管され、地域住民のアイデンティティを支え、その歴史・文化を辿る貴重な資料。(200頁)

オビシヤ文書の世界

水谷類・渡部圭一編 2018.10刊/290頁/3800円
関東の村の祭りと記録 村の鎮守祭祀であるオビシヤ行事。それを記録した「オニッキ」と呼ばれる史料が、連綿と受け継がれてきた。(A5判)

地域・交流・暮らし

加能地域史研究会・群馬歴史民俗研究会編 1600円
加賀・能登、そして上州 石川・群馬での2度のシンポジウムの成果。東四柳史明・佐藤孝之・ほか。(ブックレットH25/2018.11刊/A5判・168頁)

仮親子関係の民俗学的研究

藤原洋著 2018.09刊 A5判・454頁 9900円
筆親筆子と瀬戸内島嶼社会の家族誌 岡山県の笠岡諸島白石島の事例から、人とのつながりを見る。

「俗信」と生活の知恵

佐々木美智子著 2018.06刊/A5判・414頁/9200円
揺籃期の民俗誌から 生活に溶け込んだ俗信、すなわち「生活の知恵」を発掘し意義づけ、伝統社会に生きてきた「俗信」の実体を認識する試み。

祭礼行事「柱松」の民俗学的研究

小畑紘一著 A5判/12800円
柱松の「柱」は神の依り代か…。全国299地点の調査から、その意味を問う。(2018.03刊/544頁)



岩田書院

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山4-25-6-103【価格は税別】
TEL:03-3326-3757 FAX:03-3326-6788 <http://www.iwata-shoin.co.jp>